

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

旭川医科大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

## 評価結果

《概要》	4
------	---

《本文》	5
------	---

《判定結果一覧表》	14
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

- ：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※
- ：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

## 法人の特徴

### 大学の基本的な目標（中期目標前文）

旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすため、以下の基本的な目標を定める。

1. 豊かな人間性と基礎的・汎用的能力を育む教育を通じ、主体性を持ち国際的にも通用する医療人を養成する。併せて、グローバルな視点に立った研究力と高い実践能力を有する高度専門医療人を養成する。
2. 国際水準の研究や独創性ある研究を積極的に支援するとともに、基礎研究の成果を臨床応用・実用化につなげる一貫した支援体制を構築し、イノベーション創出のための研究環境整備を推進する。
3. 地域社会の課題解決に向けて他大学・研究所・企業・行政機関などとの連携強化を図るとともに、産学官連携による共同研究等を推進し、研究成果の社会還元を図る。
4. 国際社会で活躍できる人材の養成や外国人研修生等の受入れを強化し、教育・研究の国際化を推進するとともに、国外への情報発信を促進する。
5. 高度急性期医療と先進医療の両立を図り、多職種協働による質の高い医療を提供する体制を構築するとともに、医療機能連携の強化及び高度な臨床研究の推進により優れた医療人を育成する。
6. 学長のリーダーシップの下で、学内資源の再配分や大学ガバナンス体制の点検・見直しを戦略的に進め、安定した財務基盤を構築する。

### 《設置及び理念》

本学は、道北・道東地域における医療過疎の解消と高度先端医療の提供を期待され、昭和48年に設置された。本学の基本理念は、医療の質の向上と地域医療への貢献を推進するために高い生命倫理観を有し、高度な実践能力を有する医療職者を育成すると同時に、生命科学に関する先端的研究を推進し、高度な研究能力を持つ研究者を育成することである。

### 《現況》

本学では社会の求めに応じられる医師・看護職者を育成するため、アドミッション・ポリシーに「医師・看護職者としての適性ととともに地域社会への関心を持ち、自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力を持つ学生」を掲げ、医学科入学定員の中に、地域枠制度の導入など、多様な選抜方法による入学者選抜を実施している。

学部教育では、医療人としてのモチベーションを高めるために、早期体験実習やチュートリアル教育、現場のニーズに即した実践的な科目や、「健康弱者のためのプログラム」など、新たな視点から医療を見つめる科目を配置し、「自学自習の学習態度」を養えるよう配慮している。

医学の最前線に触れ、研究の醍醐味を感じ取るために、医学科では6週間にわたり研究活動に集中的に取り組む「医学研究特論（講座配属）」の科目を設けている。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、オンライン授業というこれまで経験したことのない教育体制の整備が必要となったが、すでに導入していた学修支援システム manaba を効果的に使用し、危機を乗り越えることができた。感染状況が改善した際には、manaba と Zoom によるオンライン授業と分散登校を併用して授業を行った。実習及び臨床実習については、原則的に対面で行ったが、必要に応じ、オンラインと分散登校を併用した。学部、大学病院及び関連施設の感染防止

に留意した上で可能な限り良好な教育環境を確保するため、教育に携わる関係者が定期的に集まり、綿密に協議を重ねた。

大学院教育では、大学院医学系研究科に「看護学専攻」の修士課程、「医学専攻」の博士課程を置いている。修士課程は、看護学研究者、看護学教育者の育成を目指す「修士論文コース」と専門看護師養成を目指す「高度実践コース」からなり、豊かな人間性、優れた研究能力、高い倫理観を備えた看護専門職者を育成している。博士課程は、先端的医学研究を目指す「研究者コース」と優れた臨床研究を目指す「臨床研究者コース」からなり、高度の知識・技量・研究能力を備えた研究者及び医療職者を育成している。

大学院教育の組織体制強化のため、令和3年度には研究の進捗状況を確認できる教育・研究指導体制を整備し、令和4年度から制度を導入することとなった。

研究面では、医学・看護学の発展に資するための様々な研究が行われた。特に、「高次脳機能に関する研究」において他機関との共同研究を積極的に推進し、当該研究に関する論文を執筆する等の研究成果を上げた。また、研究支援体制の強化のため、研究戦略企画委員会を本学における研究を統括する会議体とする基本方針が立てられた。これに向けて、大学運営会議において検討課題等について情報を共有した。

また、民間企業から受け入れた研究経費により講座を設置・運営する共同研究講座や寄附講座を積極的に開設し、先端医療の開発に取り組み、研究成果を論文や学会等で発表したほか、行政機関へのアプローチを行った。

社会・国際貢献においては、本学と地域の高等学校や医療機関が連携し、将来、当該地域の医療に従事する医療職者を育て、地域医療の賦活化を図る「ふるさと医療人育成プログラム」を推進している。また、スポーツ医科学研究委員会のメンバーにより地域のスポーツ振興につながるさまざまな取り組みや、本学学生の地域保健・医療の実践の場である「学びの場」での演習・実習を通して、地域住民の生活を支援し、健康度を向上させる試みを継続している。

また、発展途上国の保健従事者等を受け入れ、保健看護等に関する研修を推進するとともに、研修員出身国（アフリカ地域）でのフォローアップ調査を実施するなど、研修内容の継続的な向上に努めた。新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、研修参加者の来日は実現できなかったが、ZoomやYouTube等のオンラインツールの活用、音声付き資料の使用等の工夫を凝らし、精力的に研修を実施した。

#### [個性の伸長に向けた取組（★）]

○学修成果基盤型教育を進めていくために、各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性、アセスメント・ポリシー、コンピテンシー、マイルストーンに関する教員の理解を深めた。また、医学科では、モデル・コア・カリキュラム改訂版に基づき、現行カリキュラムの課題を明確にし、対応策を検討し、看護学科では、モデル・コア・カリキュラムに準拠した新カリキュラムを令和元年度から開始した。

（関連する中期計画 1-1-1-1、1-1-1-2）

○アセスメント・ポリシーを制定し、評定の見直しを行った。学内説明会を経て、令和元年度からポリシーに基づく成績評価を実施した。

（関連する中期計画 1-2-4-1）

○エビデンスに基づいた教学マネジメント体制を整備するため、IR室で教学データの解析及び分析を開始した。学生トレースシステムを活用し、学生の入学時成績とその後の成績、医師国家試験合否などの関連性について有益な情報を得ている。

（関連する中期計画 1-2-4-2）

○学修支援システム manaba を導入し、有効に活用している。一部ではチーム基盤型学修（TBL）にも使用し、能動的学修を促進している。

（関連する中期計画 1-2-5-1）

○医学科に医療を通じて国際社会に貢献する人材を養成するため、「AO 入試国際医療人特別選抜」を新設した。

(関連する中期計画 1-4-8-1)

- 高次脳機能低下に伴う運動障害発現のメカニズムの解明と、その早期検出法の開発に関する研究を推進し、国内外における機関との共同研究や得られた研究成果等により臨床研究応用につなげている。

(関連する中期計画 2-1-10-3)

- 教育研究推進センター及び臨床研究支援センターが連携し、効果的な研究者教育のプログラム検討や臨床研究担当教員における臨床研究法等の理解度向上に資する取り組み等を通じて、研究支援体制の強化を図っている。

(関連する中期計画 2-1-11-1)

- 「基礎系講座の持つ実験技術・共同利用可能な保有実験機器」に係るデータベースを作成し、提供可能な実験等技術の説明と共同利用が可能な実験機器を学内 HP で公開し、各講座等の機器の共同利用推進を図っている。

(関連する中期計画 2-2-12-1)

- 地域医療に従事する医療職者を育てる「ふるさと医療人育成プログラム」を推進するとともに、そこで養成された若手医療者に対し、多職種セミナーを開催するなど医師・看護師が協働した教育支援体制を構築している。

(関連する中期計画 3-13-1)

- 本学が有する遠隔医療システムを、地域の保健・看護・介護領域へ展開し、Web 会議サービスを活用した保健・介護に関する教育・指導による人材育成など地域包括医療推進に貢献している。

(関連する中期計画 3-13-2)

- 本学のスポーツ医科学研究委員会では、国内外の人々にかかわるスポーツ医療系資格の有資格者養成に取り組んでおり、そうした者がスポーツ団体の練習・合宿支援、大会帯同を行うなど諸スポーツ団体との交流を深めるとともに、東京オリンピック・パラリンピックに向けたアスリートの健康管理と競技能力向上に貢献している。

(関連する中期計画 3-14-1)

- 地域コミュニティ団体の協力のもと、将来の医療人になる学生の演習・実習が実施できる「学びの場」が構築され、本学学生の実践能力向上が図られるとともに地域住民の生活支援や健康度向上に貢献している。

(関連する中期計画 3-14-2)

- 国際協力機構 (JICA) からの委託事業により、毎年、アフリカ地域からの研修員を受け入れ、メーリングリストやフェイスブックにより多くの研修員との情報交換を行うとともに、研修員出身国におけるフォローアップ調査の実施等を通じて研修内容の向上・改善を継続的に行っている。

(関連する中期計画 4-1-15-2)

## 評価結果

### 《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、旭川医科大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 達成している	【2】 十分に達成しているとはいえない	【1】 達成していない
<b>I 教育に関する目標</b>	【2】 おおむね達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している			3		
2 教育の実施体制等に関する目標	【2】 おおむね達成している			2		1
3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			2		
<b>II 研究に関する目標</b>	【2】 おおむね達成している					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 達成している			2		
2 研究実施体制等に関する目標	【2】 おおむね達成している				1	
<b>III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</b>	【3】 達成している					
	なし			2		
<b>IV その他の目標</b>	【2】 おおむね達成している					
1 グローバル化に関する目標	【2】 おおむね達成している				1	

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

## 《本文》

### I 教育に関する目標（大項目1）

#### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### （1）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
高度な知識・技術を身に付けた医療人を育成するため、カリキュラムを整備し学修成果基盤型教育を構築する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-1-2	判定		判断理由
基本的診療能力及び看護実践能力の向上のため、技能・態度領域に関する学修成果測定方法を開発する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

小項目 1-1-3	判定		判断理由
国際的に活躍できる研究者と地域医療の中核を担う高度専門医療人を育成するため、大学院カリキュラムを検証し、充実させる。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
《特記事項》			
該当なし			

**(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)**

<p>【評価結果】 中期目標をおおむね達成している</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を達成していない」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-2-4	判定		判断理由
教育の質を大学として明確に保証できるようにするため、エビデンス(客観的根拠)に基づいた教学マネジメント体制を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
《特記事項》			
該当なし			
小項目 1-2-5	判定		判断理由
学生の能動的学修をサポートする環境を構築する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
《特記事項》			
(特色ある点)			
○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学修機会を確保するため、学修管理システム manaba と Zoom との併用による授業を実施しており、教員に対して授業方針等に関する説明会を行うとともに、操作に習熟していない教員を対象にハンズオンセミナーを開催している。			



小項目 1-2-6	判定		判断理由
高度専門医療人及び研究者を育成するため、大学院教育の組織体制を強化する。	【1】	中期目標を達成していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。</li> <li>また、「大学院教育における研究の進捗確認の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を達成していない。</li> </ul>
	《特記事項》		
	(改善を要する点) ○ 大学院教育における研究の進捗確認の状況 研究の進捗状況を確認できる教育・研究指導体制を整備することについて、医学専攻及び看護学専攻ともに、令和4年4月1日から研究指導計画の制度を導入することが審議・了承されたものの、第3期中期目標期間中の整備には至っていない。(中期計画 1-2-6-1)		

**(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)**

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-3-7	判定		判断理由
教育施設環境に関する総合的な情報に基づいて学修環境を整備する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> </ul>
	《特記事項》		
	該当なし		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-4-8	判定		判断理由		
<p>変化する社会情勢に即応した入学者選抜を実施するため、入学者に求める能力を明確にし、それらを公正に評価・判定する選抜方法に変更する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>		
				《特記事項》	
				該当なし	
小項目 1-4-9	判定		判断理由		
<p>地域医療に対する強い意欲・使命感を持った入学者を選抜するため、特に北海道内の高等学校との高大連携活動を推進する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>		
				《特記事項》	
				<p>(特色ある点)</p> <p>○ 高校・病院との連携推進                      医学科の「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」は、北海道内の高等学校及びその地域の病院と連携し、高校生による医療問題学習や医療体験実習を通じて、医療人となる意思を涵養するものとなっている。各高等学校での活動と年に1回の発表会から構成され、その参加人数は年々増加しており、入学者に占める本プログラムの参加者の割合も増加傾向にある。(中期計画 1-4-9-1)</p> <p>○ 地域医療を担う人材の育成                      高大連携活動を経験した新入生が増加傾向にあり、将来出身地に戻り地域医療を担う人材の増加が期待される。なお、事業開始前の医学科卒業生のうち、北海道内で初期臨床研修を開始した者は50%前後で推移していたが、事業開始後は80%前後まで増加している。(中期計画 1-4-9-1)</p>	

## Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

### 2. 中期目標の達成状況

#### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-10	判定		判断理由
基礎研究基盤の充実を図り質の高い研究を推進するため、基礎医学分野と臨床医学分野の連携を強化し、臨床マインドを持つ若手基礎医学研究者を育成するとともに、地域及び社会の発展に寄与する特色ある研究を重点支援する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-1-11	判定		判断理由
研究支援体制を強化し、研究成果の社会還元を推進する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-12	判定		判断理由
<p>研究活動の活性化のため、研究者が研究に専念できる環境を醸成できるよう、間接経費を弾力的に運用する。</p>	<p>【2】</p>	<p>中期目標を十分に達成しているとはいえない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。</li> <li>・ また、「研究基盤強化につなげる PDCA サイクルの状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。</li> </ul>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(改善を要する点)</p> <p>○ 研究基盤強化につなげる PDCA サイクルの状況</p> <p>研究基盤強化につなげる PDCA サイクルの確立について、一定の取組は見られるものの、第 3 期中期目標期間中に確立には至っていない。(中期計画 2-2-12-1)</p>			

## Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

## 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

## 2. 中期目標の達成状況

小項目 3-13	判定		判断理由
道北・道東地域のニーズに対応する地域創生の拠点として、地域社会と連携し、全世代にわたる「ふるさと医療人」の育成事業を推進する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
また、少子高齢社会の課題の解決を実践する地域包括医療の新しいモデルを構築する教育・研究を展開する。	(優れた点)		
	○ 医師不足地域への就職者増加 卒業後に附属病院で卒後臨床研修を希望するマッチング者数が増加し、北海道内に定着して地域医療に従事する者の割合が高くなっている。道北・道東等の医師不足地域に就職した卒業生は、平成28年度12名から平成30年度34名と増加している。(中期計画3-13-1)		
小項目 3-14	判定		判断理由
大学コンソーシアムや企業・地方公共団体等と連携し、地域貢献のための人材育成及び共同研究等を行う。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

#### IV その他の目標（大項目4）

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標をおおむね達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

##### 2. 中期目標の達成状況

###### (1) グローバル化に関する目標（中項目4-1）

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-15	判定		判断理由
医療従事者、研究者及び学生の海外からの受入れ及び海外への派遣をとおして、世界の人々の健康の保持増進を担い国際保健に貢献できる医療人を育成する。	【2】	中期目標を十分に達成しているとはいえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。</li> <li>また、「海外研修機会及び海外からの来訪者との交流機会等の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。</li> </ul>
	《特記事項》		
	(改善を要する点) ● 海外研修機会及び海外からの来訪者との交流機会等の状況 海外研修機会を増やすという指標（目標値：1倍超）、海外からの来訪者との交流機会を増やすという指標（目標値：1倍超）、海外からの来訪者に対する地域社会と連携した生活支援や学内、地域コミュニティ及び周辺地方公共団体が提供するイベントへの参加機会を増やすという指標（目標値：1倍超）について、令和2、3年度においては0件である。これらの3指標については、新型コロナウイルス感染症の影		

	響が明らかであると認められるが、目標達成に向けた取組や活動は十分ではない。したがって、中期計画 4-1-15-1 については、十分に実施しているとは認められない。(中期計画 4-1-15-1)
--	--

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 <b>教育に関する目標</b>	<b>【2】</b>	2.70 うち現況分析結果加算点 -0.13	<b>【2】</b>
中項目1-1 <b>教育内容及び教育の成果等に関する目標</b>	<b>【3】</b>	3.00	<b>【3】</b>
小項目1-1-1 高度な知識・技術を身に付けた医療人を育成するため、カリキュラムを整備し学修成果基盤型教育を構築する。	<b>【3】</b>	2.00	<b>【3】</b>
中期計画1-1-1-1(★) 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」等との整合性を保つため、定期的に教育内容を点検し、必要があれば改善する。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>
中期計画1-1-1-2(★) ディプロマ・ポリシー及びコンピテンシー(卒業時に必要な能力)の周知を図り、到達レベルの設定・見直しを行い、学修成果基盤型教育を構築する。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>
小項目1-1-2 基本的診療能力及び看護実践能力の向上のため、技能・態度領域に関する学修成果測定方法を開発する。	<b>【3】</b>	2.00	<b>【3】</b>
中期計画1-1-2-1 学生の基本的診療能力・看護実践能力を評価するためのOSCE(Objective Structured Clinical Examination 客観的臨床能力試験)を整備する。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>
小項目1-1-3 国際的に活躍できる研究者と地域医療の中核を担う高度専門医療人を育成するため、大学院カリキュラムを検証し、充実させる。	<b>【3】</b>	2.00	<b>【3】</b>
中期計画1-1-3-1 博士課程では、海外研究機関等での研修や国際学会での発表を支援するなど、グローバル化に対応するための取組を平成30年度及び平成33年度に検証し、充実させる。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>
中期計画1-1-3-2 修士課程では、地域医療の中核となる高度専門医療人を育成するため、がん看護学領域に加え、高齢者看護学領域の専門看護師の教育課程を設け、平成30年度及び平成33年度に検証し、充実させる。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>
中項目1-2 <b>教育の実施体制等に関する目標</b>	<b>【2】</b>	2.33	<b>【2】</b>
小項目1-2-4 教育の質を大学として明確に保証できるようにするため、エビデンス(客観的根拠)に基づいた教学マネジメント体制を整備する。	<b>【3】</b>	2.00	<b>【3】</b>
中期計画1-2-4-1(★) 学修成果の評価領域、達成すべき水準、具体的測定方法などを明確化し、アセスメント・ポリシー(学修成果の評価の方針)に基づいた客観的な成績評価を行う。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>
中期計画1-2-4-2(★) 医学教育分野別認証を受審するため、平成29年度までに大学IR(Institutional Research 機関調査)部門を中心にして教学データの解析・分析を行い、教育の質保証を確立する体制を整備する。	<b>【2】</b>		<b>【2】</b>



中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-2-5 学生の能動的学修をサポートする環境を構築する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-5-1(★) 学修履歴を可視化するため、平成29年度までにLMS (Learning Management System 学修管理システム)を導入し、講義受講前後の指導と自己学修を促進する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-2-6 高度専門医療人及び研究者を育成するため、大学院教育の組織体制を強化する。	【1】	達成していない	1.00	【1】
中期計画1-2-6-1 博士課程と修士課程を統括する委員会を平成29年度までに設立し、研究指導教員の決定プロセスを組織的に明確化するとともに、研究の進捗状況を確認できる教育・研究指導体制を整備する。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
中項目1-3 <b>学生への支援に関する目標</b>	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-3-7 教育施設環境に関する総合的な情報に基づいて学修環境を整備する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-3-7-1 学生生活実態調査における満足度調査や教員に対する施設満足度調査などのニーズアセスメント(必要性評価)を実施し、その結果を平成28年度改定予定のキャンパスマスタープランに反映させ、それに基づいて学修環境を整備する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-7-2 学生の健康指導の充実を目的に、保健管理センターの情報蓄積機能を電子化するための基本計画を平成29年度までに立案し、平成30年度以降に実行する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-7-3 外国人留学生の学修環境を充実するため、引き続き、北海道地区の国立大学と連携し、入学前の留学生を対象とした準備教育に取り組む。 また、学生が教養科目の選択肢を広げられるようにするため、北海道地区の各国立大学との連携により構築した双方向遠隔授業システムを、第1期連携期間として設定されている平成29年度まで活用する。平成30年度以降の活用については、教養教育の将来あるべき方向性を踏まえて平成28年度に各大学間で改めて検討・調整する。	【2】	実施している		【2】
中項目1-4 <b>入学者選抜に関する目標</b>	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-4-8 変化する社会情勢に即応した入学者選抜を実施するため、入学者に求める能力を明確にし、それらを公正に評価・判定する選抜方法に変更する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-4-8-1(★) 平成26年12月22日の中央教育審議会答申に沿って進行中の高大接続改革(「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入及びそれに先立つ試行テストの実施等)に対応するため、入学者に求める能力・意欲・適性等がより明確になるようにアドミッション・ポリシーを平成30年度までに見直すとともに、平成33年度入試から、学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を多面的・総合的に評価できるように、多様な評価方法を組み合わせた入学者選抜にする。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-8-2 社会ニーズに合致した高度専門医療人としての素養を持った入学者を選抜するため、大学院における入学者選抜試験を検証し、入学者に求める能力・意欲・適性等を新たなアドミッション・ポリシーとして平成30年度までに明確に示す。	【2】	実施している		【2】

旭川医科大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-4-9 地域医療に対する強い意欲・使命感を持った入学者を選抜するため、特に北海道内の高等学校との高大連携活動を推進する。	【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画1-4-9-1 北海道内の高等学校・医療機関と連携して、地域医療を支える人材の育成を目的とした高校生対象の医療体験実習・実習報告会・グループワーク等の高大病連携活動等を実施し、地域医療に関心のある志願者を確保する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
<b>大項目2</b> <b>研究に関する目標</b>	【2】	おおむね達成している	2.50 うち現況分析結果加算点 0.00	【2】
<b>中項目2-1</b> <b>研究水準及び研究の成果等に関する目標</b>	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目2-1-10 基礎研究基盤の充実を図り質の高い研究を推進するため、基礎医学分野と臨床医学分野の連携を強化し、臨床マインドを持つ若手基礎医学研究者を育成するとともに、地域及び社会の発展に寄与する特色ある研究を重点支援する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-1-10-1 基礎系・臨床系の共同研究体制充実のため、基礎系講座が持っている実験技術を大学院学生及び臨床系研究者に技術提供する学内体制を平成30年度までに定着させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-10-2 学長裁量経費による「独創性のある生命科学研究」の支援事業を継続し、研究実施者の底辺拡大を進めることで、欧文論文(原著と総説)生産数を第3期中期目標期間6か年において年間平均200報以上(第2期中期目標期間第5年次までの平均値は186報/年)にする。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-10-3(★) 本学で推進している高次脳機能低下に伴う運動障害発現のメカニズムの解明と、その早期検出法の開発に関する研究のうち、臨床応用への展開が有望な研究について、他機関と機器の共同利用を進め基礎研究の知見に基づく応用技術の開発につなげる。	【2】	実施している		【2】
小項目2-1-11 研究支援体制を強化し、研究成果の社会還元を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-1-11-1(★) 教育研究推進センターを中心として学内共同研究を支援し、「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」を通じて得られた成果を生かし、新しい医薬品・医療機器の薬事承認及び製品化を目指したシーズ開発を進める。	【2】	実施している		【2】
<b>中項目2-2</b> <b>研究実施体制等に関する目標</b>	【2】	おおむね達成している	2.00	【2】
小項目2-2-12 研究活動の活性化のため、研究者が研究に専念できる環境を醸成できるよう、間接経費を弾力的に運用する。	【2】	十分に達成しているとはいえない	1.00	【2】
中期計画2-2-12-1(★) 研究活動の活性化のため、本学共同利用設備マスタープランを作成し、共同利用施設の機器更新、保守修理のために競争的資金等で措置される間接経費を平成29年度までに弾力的に運用できるよう見直し、研究基盤強化につなげるPDCAサイクルを確立する。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 <b>社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</b>	<b>【3】</b>	達成している	3.00	<b>【3】</b>
	なし	—	—	なし
小項目3-13 道北・道東地域のニーズに対応する地域創生の拠点として、地域社会と連携し、全世代にわたる「ふるさと医療人」の育成事業を推進する。 また、少子高齢社会の課題の解決を実践する地域包括医療の新しいモデルを構築する教育・研究を展開する。	<b>【3】</b>	達成している	2.00	<b>【3】</b>
中期計画3-13-1(★) 第2期中期目標期間から継続する「ふるさと医療人育成プログラム」を経験して地域で活躍する医療人となった医師・看護師と協働した教育支援事業を実施する。 また、「地域包括医療」実践に関わる保健師・介護職者などの地域医療職者を対象とした公開講座・派遣講座を新たに実施し、学習支援事業の対象を広げるとともに、その成果を体系的に評価する体制を構築する。	<b>【2】</b>	実施している		<b>【2】</b>
中期計画3-13-2(★) 遠隔医療システムを活用し、地域保健・在宅看護の分野においても、双方向リアルタイムの講演を行うとともに、オンデマンドで利用可能な健康関連コンテンツを充実させるなど、地域包括医療の課題解決にICT(情報通信技術)を活用する新たな支援体制を構築する。	<b>【2】</b>	実施している		<b>【2】</b>
小項目3-14 大学コンソーシアムや企業・地方公共団体等と連携し、地域貢献のための人材育成及び共同研究等を行う。	<b>【3】</b>	達成している	2.00	<b>【3】</b>
中期計画3-14-1(★) 高齢者や障がい者を含む住民への健康スポーツ振興のため、スポーツに関する派遣講座の実施、地方公共団体やスポーツ関連団体との連携、障がい者アスリートのクラス分けなどの医科学的サポート体制を構築する。 また、本学が主導する旭川ウェルビーイング・コンソーシアムに民間団体を加えた産学官異業種交流の場を平成28年度に設置し、さらに、専門ワーキング・グループを新設して地域の課題解決に向けた活動を実施する。	<b>【2】</b>	実施している		<b>【2】</b>
中期計画3-14-2(★) 地域を支える人材の好循環を生み出すため、地方公共団体や地域諸団体が有する資源と本学の有する資源を連携させた「学びの場」を新たに構築し、地域との交流の中で学生教育を実施する。	<b>【2】</b>	実施している		<b>【2】</b>
大項目4 <b>その他の目標</b>	<b>【2】</b>	おおむね達成している	2.00	<b>【3】</b>
中項目4-1 <b>グローバル化に関する目標</b>	<b>【2】</b>	おおむね達成している	2.00	<b>【3】</b>
小項目4-1-15 医療従事者、研究者及び学生の海外からの受入れ及び海外への派遣をとおして、世界の人々の健康の保持増進を担い国際保健に貢献できる医療人を育成する。	<b>【2】</b>	十分に達成しているとはいえない	1.50	<b>【3】</b>
中期計画4-1-15-1(*) 本学の学生等の国際意識を涵養するため、海外研修機会及び海外からの来訪者との交流機会を増やし相互理解を深める。 また、海外からの来訪者に対する地域社会と連携した生活支援(社会生活、日常会話、文化・経済・医療などの知識教授)や学内、地域コミュニティ及び周辺地方公共団体が提供するイベントへの参加機会を増やす。	<b>【1】</b>	十分に実施しているとはいえない		<b>【2】</b>

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画4-1-15-2(★)  国際医療レベルの向上に貢献するため、発展途上等の医療従事者、研究者及び学生を受入れ、出身国の国民保健の向上に資する研究及び保健医療活動実践に必要な基本的能力について講義・演習をとおして教授する。  併せて、本学職員が発展途上等を訪問し、本学で学んだ研修員のフォローアップ・研究者との国際共同フィールド研究等をおとして、現地スタッフと協働して医療活動・医学研究を行うことで、実践的に知識・技術を移転する。	【2】	実施している	【2】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

(★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)

(◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」

(\*) :新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。

なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。